

別紙

三菱ケミカル株式会社 広島事業所
テクノUMG株式会社 大竹工場

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

三菱ケミカル株式会社 広島事業所
テクノUMG株式会社 大竹工場

(2) 事業所の所在地

広島県大竹市御幸町20番1号

(3) 業種

三菱ケミカル株式会社 広島事業所	…1632	脂肪族系中間物製造業
テクノUMG株式会社 大竹工場	…1735	プラスチック製造業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成27（2015）年度を基準年度とし、平成28（2016）年度から令和2（2020）年度までの5年間とする。なお、非エネルギー起源の温室効果ガスについては、平成19（2007）年度を基準年度とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量(a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成19年度 (2007)	平成32年度 (2020)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)
エネルギー 起源CO ₂							
非エネルギー 起源CO ₂	50,981	49,961 2	38,913 24	39,205 23	33,218 35	25,337 50	27,833 45
メタン	147	144 2	137 7	142 3	130 12	140 5	151 -3
一酸化二窒素	3,608	3,536 2	3,436 5	3,277 9	3,017 16	3,313 8	2,979 17
その他 温室効果ガス							
温室効果ガス 実排出量総計							
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価							

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：基準製品換算生産数量(t)

温室効果ガスの種類	基準年度の実績(a)	目標年度 上段：目標(b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成27年度 (2015)	平成32年度 (2020)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)
エネルギー 起源CO ₂	612	582 +4.9	539 +11.9	497 +17.8	552 +9.7	513 +16.2	483 +21.0
非エネルギー 起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							

その他 温室効果ガス							
温室効果ガス 総排出量							
エネルギー消費 原単位（原油換 算k1）	189.7		165.4	148.5	163.2	153.3	142.1
			+12.8	+21.7	+14.0	+19.2	+25.1
実績に対する 自己評価		平成27～32年度：テクノUMG(株)大竹工場は算定対象外					

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	運転安定化による原単位向上	982原油KL	令和2年度 歩留まり向上、 工程安定化による蒸気量削減
2	プロセス見直しによるユーティリティ削減	762原油KL	令和2年度 廃熱回収による蒸気量削減、 蒸留回収負荷軽減、 運転条件適正化による蒸気量削減
3	燃料の見直し	390原油KL	令和2年度 バイオマス燃料の混焼
4	機器更新による省エネ	324原油KL	令和2年度 ポンプのインバータ化、冷凍システムの再構築、冷凍機更新、休止中の照明削減、照明LED化、エアコン更新
5	運転条件見直しによるユーティリティ削減	179原油KL	令和2年度 休憩中の窒素削減 洗浄水削減に合わせて蒸気量削減

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1	特になし	
2		
3		

○ その他の取組

	項目	数値目標	具体的な取組み
	廃棄物の削減及び再利用		<ul style="list-style-type: none"> ・ 場内焼却炉による廃油発生量の低減 ・ 焼却灰の再資源化検討
	省エネCO2削減		<ul style="list-style-type: none"> ・ エアコン温度管理徹底（夏28℃以上、冬20℃以下） ・ 蒸気ロス（トラップ含む）管理の徹底

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。